

コロナが蔓延し尽した今、これからの私達の生活のあり方は？ パート6、

前月7月中旬より新型コロナウイルス感染症 COVID-19 オミクロン株の BA.5 が想像を超えて急速に拡大に転じてきました。今、世界中で新規感染者数が一番多いのは日本だそうです。日本の統計は比較的正確ですので多いだけで、団栗の背比べと同じなので、世界中に再爆発してきたということです。

それぞれの国の内外の地域毎にどう対応するか、正解は一つではありませんので、私達の有り方が直接問われていることとなります。

もともと COVID-19 の潜伏期は短ければ1日で発症、長ければ2週間と言われてきて、発症2日前より無症状でも感染性があるというのがその特徴でした。

ここに来てオミクロン株の BA.5 は潜伏期間が短くなり平均では24日とも言われます。1週間以上経っても感染力のある人はゼロではありませんので、100%安全ではありませんが、経済と感染対策の両立が不可欠になってきていますのでその為の我々の実務能力が試される時です。

○感染予防のポイントは2つ、一つはこれまでの予防対策の基本を守っていればまず感染しませんし、万一本人が感染したとしても、他人に感染させる心配は不要です、

○二つ目のポイントは、周りに感染者があふれていますので県外移動云々は意味ありません。不特定多数と接触する場合、友人でも久しぶりに会う場合、これを意識することです。この場合には「2日ルール」、「3日ルール」、「5日ルール」のどれかをリスクに応じて適用することになります。

従って、今まで多職種協働で私達が行ってきた実績を信頼して、今まで通り対応していけば大丈夫、と自信を持つことです。行政上の感染対応の考え方も一般インフルエンザとほぼ同じで良いということになりました。

但し、重症化率も後遺症もインフルエンザよりは高く、特に高齢者の重症化率が高い、ということは高齢者施設で働く我々は忘れてはいけません。

大事なことは、上記ポイント2つを徹底することです。そのためにはハウ・レン・ソウ（報告連絡相談）の徹底です。

